

平成26年度公共用水域の水質測定結果について

平成27年10月13日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて策定した「平成26年度公共用水域の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

- 1 調査期間 平成26年4月～平成27年3月
- 2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省、独立行政法人水資源機構
- 3 測定項目及び調査地点

区分		生活環境項目	健康項目	ダイ付沙類	要監視項目	その他
項目数		12	27	1	29	15
地点数	河川	73	39	7	26	25
	湖沼	8	6	2	1	8
	海域	129	24	4	6	25

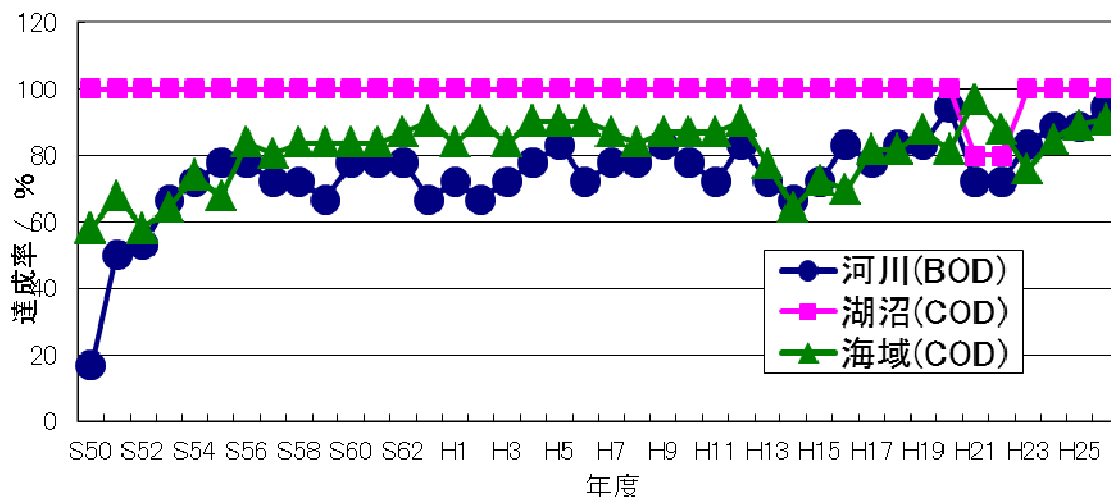
4 調査結果の概要等

(1) 生活環境項目

ア 環境基準点における環境基準の達成状況は、河川(BOD)が94%、湖沼(COD)が100%、海域(COD)が91%であり、全体では93%であった。

BOD又はCODの環境基準の達成状況

区分	26年度		(参考) 25年度	
	達成率	達成水域数／調査水域数	達成率	達成水域数／調査水域数
河川	94%	17/18	89%	16/18
湖沼	100%	5/5	100%	5/5
海域	91%	30/33	88%	29/33
合計	93%	52/56	89%	50/56



参考：環境基準達成率の経年変化（BOD又はCOD）

○未達成水域の状況等

区分等		26年度	25年度
河川	AA類型	石手川(乙)	石手川(乙)
	A類型	—	肱川水域(甲)
海域	A類型	伊予灘一般、宇和海一般、燧灘東部	新居浜海域(丙)、西条海域(丙)、伊予灘一般、宇和海一般

イ 全窒素及び全燐の環境基準の達成状況(海域のみ)

	26年度	25年度
全窒素	100%(5水域)	100%(5水域)
全燐	100%(5水域)	100%(5水域)

(2) 健康項目

調査を実施した69地点(河川39地点、湖沼6地点、海域24地点)全てにおいて、環境基準を達成した(平成25年度も達成)。

健康項目の調査結果概要

(単位: mg/L)

項目	調査結果	基準値
カドミウム	<0.001	0.003以下
全アン	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	0.01以下
六価クロム	<0.02	0.05以下
砒素	<0.001~0.008	0.01以下
総水銀	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエレン	<0.002	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエレン	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.001	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
トリクロロエレン	<0.003	0.01以下
テトラクロロエレン	<0.001	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002以下
チウラム	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	0.01以下
セレン	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02~1.9	10以下
ふっ素	<0.08~0.35	0.8以下
ほう素	<0.02~0.4	1以下
1,4-ジオキサン	<0.005	0.05以下

(3) ダイオキシン類

調査を実施した13地点（河川7地点、湖沼2地点、海域4地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成25年度も達成）。

ダイオキシン類の調査結果概要

区分	水 質 (pg-TEQ/L)			底 質 (pg-TEQ/g)		
	地点数	調査結果	基準値	地点数	調査結果	基準値
河川	7	0.044～0.095	1以下	7	0.11～1.9	150以下
湖沼	2	0.067		2	1.5～3.4	
海域	4	0.042～0.058		4	2.0～13	

(4) 要監視項目

調査を実施した33地点（河川26地点、湖沼1地点、海域6地点）において、2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。

（平成25年度も2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過）

要監視項目指針値超過地点の調査結果概要

（単位：mg/L）

区分	超過地点	項目	調査結果 (年平均値)	指針値	要因等
河川	加茂川水域St-7	アンチモン	0.11	0.02	地質由来
	砥部川水域St-2		0.039		
海域	松山海域St-2	ウラン	0.0026	0.002	海水由来

(5) その他項目

内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン物質）については、調査を実施した5地点（河川1地点、海域4地点）全てにおいて、3項目ともに検出されなかった（平成25年度も検出されず）。

内分泌攪乱化学物質の調査結果概要

（単位：μg/L）

区分等	調査地点数	4-オクチルフェノール	ビスフェノールA	DDT
河川	1	N. D.	N. D.	N. D.
海域	4	N. D.	N. D.	N. D.
定量下限値	—	0.01	0.01	0.05

平成26年度地下水の水質測定結果について

平成27年10月13日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて作成した「平成26年度地下水の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

1 調査期間 平成26年4月～平成27年3月

2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省

3 調査結果の概要等

(1) 継続監視調査

ア 調査地点及び測定項目

調査機関	地点数	環境基準項目	要監視項目
県	52	4※ ¹	—
松山市	13	5※ ²	—
国土交通省	6	13※ ³	5※ ⁴

※1 砒素、1,1,1-トリクロロエタン、テトラクロロエレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※2 1,1-ジクロロエレン、1,2-ジクロロエレン、トリクロロエレン、テトラクロロエレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※3 ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエレン、1,2-ジクロロエレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエレン、テトラクロロエレン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン、塩化ビニルモノマー、1,4-ジオキサン

※4 クロロホルム、1,2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、トルエン、キシレン

イ 調査結果（基準超過地点）

○ 環境基準項目

調査を実施した71地点において、テトラクロロエレンが1地点、砒素が1地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が19地点で、環境基準を超過した。

（平成25年度は、テトラクロロエレンが1地点、砒素が1地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が24地点超過）

・テトラクロロエレン

（単位：mg/L）

調査機関	調査地点	平成26年度	平成25年度	環境基準
松山市	松山市生石町	0.030	0.027	0.01以下

・砒素

（単位：mg/L）

調査機関	調査地点	平成26年度	平成25年度	環境基準
愛媛県	今治市関前小大下	0.015	0.016	0.01以下

・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

(単位:mg/L)

調査機関	調査地点	原因	調査結果	
			平成26年度	平成25年度
県	今治市山口甲	施肥	14	14
	今治市宮窪町友浦	施肥	15	13
	今治市大三島町野々江	施肥、生活排水	13	14
	今治市上浦町盛	施肥	16	15
	今治市上浦町井口	施肥	14	23
	今治市大西町九王	施肥	18	18
	上島町弓削狩尾	施肥	16	18
	上島町生名	施肥	19	19
	上島町岩城	施肥	14	17
	砥部町川井	施肥	17	22
	伊予市双海町上灘	生活排水	14	20
	伊方町二見	施肥	21	18
	八幡浜市保内町川之石	施肥	13	13
松山市	松山市山西町	施肥	20	20
	松山市吉藤	施肥、生活排水	24	23
	松山市宮野	施肥	11	13
	松山市津和地	施肥	14	11
	松山市宇和間	施肥	13	8.0
	松山市由良 ^{※※}	施肥	15	15

※ 環境基準 10mg/L以下 ※※ 平成25年度は概況調査地点

○ 要監視項目

調査を実施した6地点において、指針値の超過はなかった。

(2) 概況調査

ア 調査地点及び測定項目

調査機関	地点数	環境基準項目	要監視項目
県	10	7 [※]	—
松山市	12	28	24

※ 砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、塩化ビニルモノマー、1,2-ジクロロエレン、1,4-ジクロロベンゼン

イ 調査結果

調査を実施した22地点全てにおいて、環境基準を達成した。

(平成25年度は、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が1地点で、環境基準を超過)

(3) ダイオキシン類調査

ア 調査地点

松山市 1地点

イ 調査結果

環境基準を達成した。(平成25年度も達成)